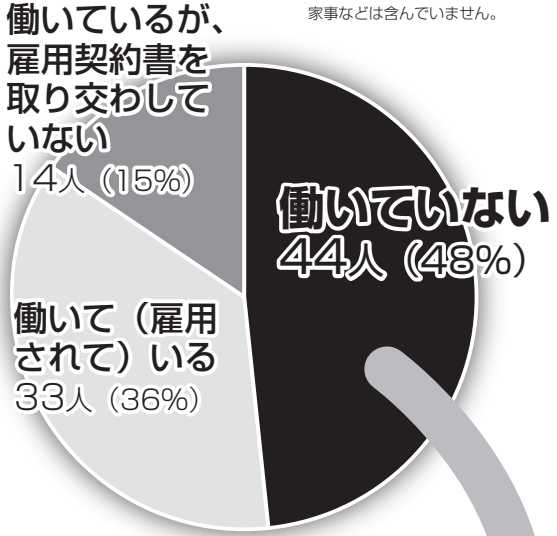




Q1 今働いていますか？

〔回答数91人（100%）〕

ここでの「働く」は賃金をもらっている形態で、家事などは含んでいません。

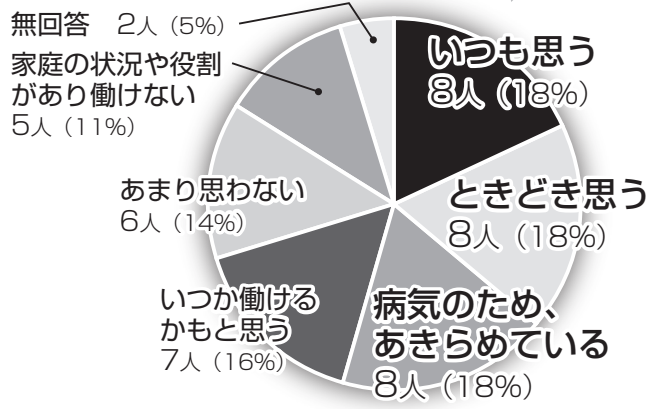


「長く働くこと」アンケート

このアンケートでの「働く」というのは、(Q1以外)雇用契約を結んで働くということを想定していて、パート、アルバイト、派遣、就労継続支援A型なども含んでいます。

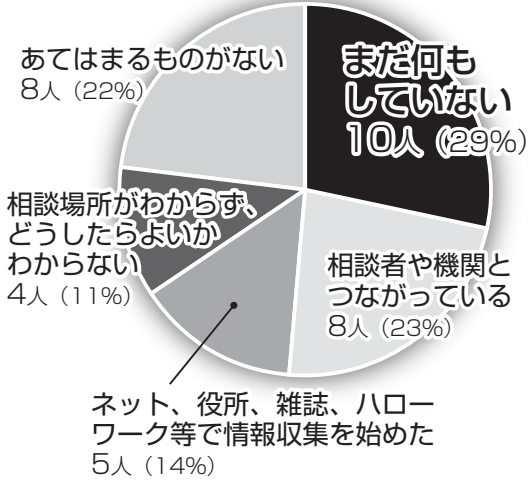
Q2 働きたいと思うか？

〔今働いていない44人（100%）の回答〕



Q3 就職活動の状況

〔これから仕事をしたいと思う35人（100%）の回答〕



Q4 一番長いのは

病気をかかえながら（病気後）、働いた期間で、一番長かったのはどれくらいですか？

5年以上	25人 (35%)
1～3年	20人 (28%)
6か月～1年	9人 (13%)
3～5年	9人 (13%)
0～3か月	4人 (6%)
3～6か月	4人 (6%)
計	71人 (100%)

Q5 一番短いのは

病気をかかえながら（病気後）、何回か働いた期間で、一番短かったのはどれくらいですか？

0～3か月	39人 (61%)
3～6か月	12人 (19%)
6か月～1年	5人 (8%)
1～3年	3人 (5%)
3～5年	3人 (5%)
5年以上	2人 (3%)
計	64人 (100%)

Q6

病気をした後での 休職や退職の 経験

〔回答数91人(100%)〕

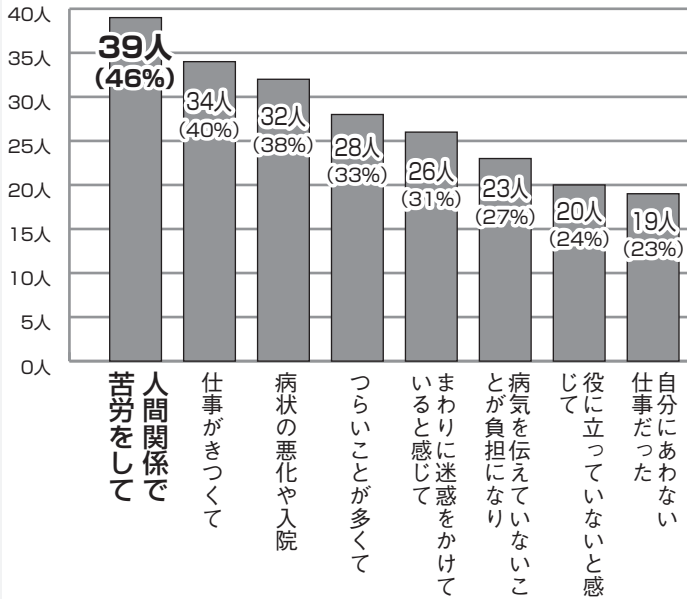
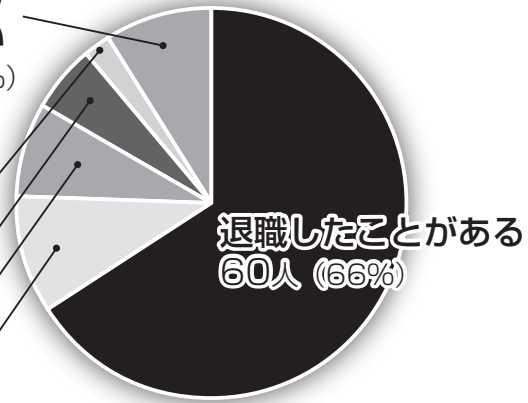
あてはまる
ものがない
8人(9%)

よくわからない 2人(2%)

なんとか仕事を続けている 5人(5%)

発病当時も今も仕事はしていない 7人(8%)

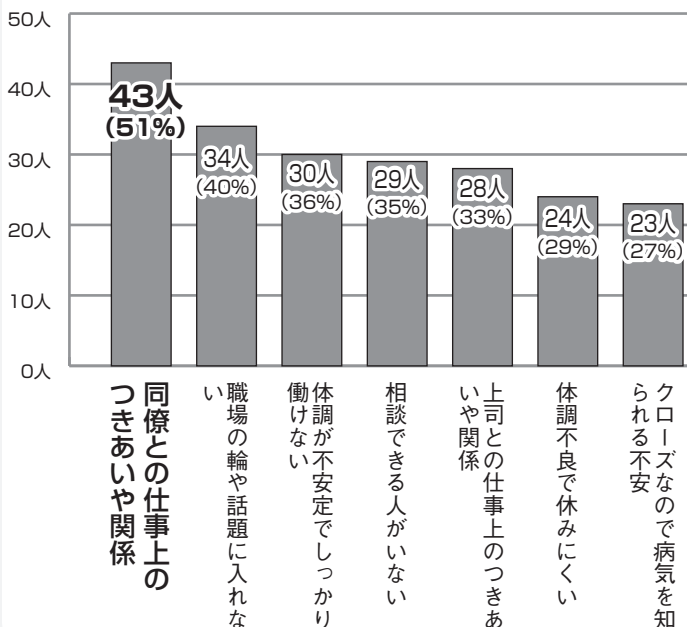
休職したことがある 9人(10%)



Q7

仕事を続けられなかった理由

〔84人(100%)の複数回答〕



Q8

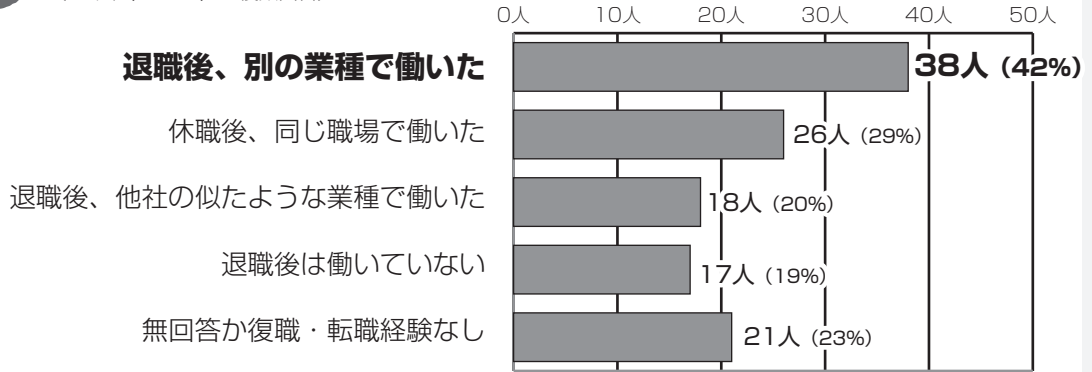
働いているときの不安や困りごと

〔84人(100%)の複数回答〕



リワーク(復職)・転職経験について

(91人(100%)の複数回答)



復職に一番大切だと思うこと

休職後に同じ職場に戻ったとき、一番大切だと思う配慮や対策は何ですか？(全員へ記述式)

記述内容をまとめてみると、

- 病気や病状への理解と配慮 15人
- 病名や状態、体調などをまわり伝えること 8人
- 偏見なく、普通に接してもらえらるること 6人
- 労働時間の短縮や自宅勤務など、働き方 6人
- 悩みを相談できる人や仕組み 3人
- 安定して、マイペースに仕事ができる環境 3人
- 原因を見つけ、くり返さないこと 3人
- その他、自分についてあげた方が9人、その内容は、



なるべく自分に自信を持つようにする
 会社の縦社会に対応すること
 わかってもらおうと思わず、たんとんと仕事をこなす
 休んだこと、仕事を肩代わりしてくれたことを謝り、お礼を言う
 自分の体調を管理できること
 自分の病気についての自分自身の十分な理解
 職場で気分や体調を相談し合い、適応するよう心がける
 職場の方に信頼されるように、努力している姿勢
 素直に聞き入れる姿勢



調査期間：2015年8月19日～9月7日のネット調査 有効回答数：91人(男性35人、女性54人、答えたくない2人)
 回答者の精神科での疾病(複数回答・多い順)：統合失調症45人、うつ病21人、双極性障害15人、神経症10人、発達障害8人、
 統合失調感情障害7人、恐怖症性不安障害5人、パニック障害5人、摂食障害5人、境界性パーソナリティ障害3人、てんかん3人、
 診断名がわからない・教えられていない3人、躁病1人、その他7人
 回答者の年齢(多い順)：40代36人、30代33人、50代13人、20代6人、60代3人